

施策・基本事業評価表

作成日 平成 23 年 4 月 15 日

基本目標No.	2	基本目標名	安全で快適な暮らしやすいまち
施策No.	16	施策名	快適な道路機能の強化
主管課名	建設課	主管課長名	宮崎 信一
関係課名	都市計画課		

施策が目指すすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路が整備され、朝夕の交通渋滞が解消されています。 ・身近な生活道路が整備され、毎日の通勤、通学や買い物などが便利になっています。 ・道路の維持管理や除雪が適切に行われ、安全で円滑な交通が確保されています。
-----------	--

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担や地域等への期待など	市・事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な道路のごみ拾いや除草などを行い、快適な道路環境づくりに努めます。 ・身近な道路の除雪などを行い、冬季間の円滑な道路交通確保に協力します。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・市内幹線道路網の整備を計画し、事業の実施に努めます。 ・住民生活に密着し、緊急性・重要性の高い生活道路の整備に順次取り組みます。 ・きめ細かな維持・管理を行い、安全で快適な道路環境の確保に努めます。
	その他（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみで道路の除草や側溝清掃などを行い、快適な道路環境づくりに努めます。

施策の成果達成にあたっての現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国道8号バイパスは、滑川、富山方面へのアクセスは向上しましたが、今後のさらなる利便性の向上や黒部、入善方面への渋滞の早期解消が課題です。市内を結ぶ主要な県道・市道は、歩道の整備された路線が少なく、安全な道路環境の確保が必要です。 ・郊外での宅地開発により造成された住宅団地やアパートなどと幹線道路を結ぶ道路の交通量が増加しており、市民の暮らしに密着した生活道路の整備が求められています。 ・路上工事や道路補修に対する問い合わせや要望が多く、効率的で適切な維持管理が求められています。また、除雪路線の拡充や消雪施設の整備など、冬季間の円滑な道路交通の確保が必要です。
--------------------	---

施策No.	16	施策名	快適な道路機能の強化
-------	----	-----	------------

22年度の 評価結果 (基本事業 の成果を考 慮し記載)	1. 施策(基本事業)の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)
	◆市民の道路に対する満足度は、平成21年度58.1%に対し平成22年度46.5%と11.6ポイント下がっている。
	◆市内の公道(国、県、市道)の道路改良率及び市道の改良・舗装率の平成21年度に対して平成22年度の実績値は共に微増である。
	◆苦情・要望のあった道路補修の実施率は、平成21年度74.1%に対し平成22年度80.3%と6.2ポイント増加している。
	◆市内の公道(国、県、市道)の道路除雪延長は、平成21年度375.6kmに対し平成22年度380.3kmと4.7km増加している。
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)
	◆近隣他市との比較は行っていない。
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)
	◆幹線道路については、通勤通学時の慢性的な渋滞解消と歩行者の安全通行が望まれる。生活道路についてはある程度整備されているが、老朽化が進み住民から修繕の要望が耐えない状況である。また、除雪路線の拡充とよき細かな作業実施の要望が多く寄せられている。
2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策及び基本事業の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述)	
◆幹線道路の整備	
・国道では、滑川魚津バイパスの出交差点から佐伯交差点間の4車線化工事が完了し、平成22年12月に供用開始となった。	
・県道では、宇奈月大沢野線片貝川の架橋工事が順次着工され、青柳～石垣新区間の供用開始に向け整備が進められている。	
・市道は、吉島中川側線の北鬼江交差点から北鬼江西交差点までの拡幅改良と消雪施設の整備が完了し、幹線道路のネットワーク化が図られた。	
◆生活道路の整備	
・住民生活に密着した市道26路線の改良や舗装を行った。	
・経田中央地区土地区画整理事業区域内で延長529mの市道を整備し、住宅密集地の道路環境の改善を図った。	
・魚津駅西広場からありそドームに通じる市道本新魚津駅線外の歩道のバリアフリー化を行った。	
◆道路維持管理体制の強化	
・苦情・要望のあった市道の維持補修について速やかな対応に努め、安全な道路交通の確保に努めた。	
・金浦町の市道3路線に消雪施設を設置し、冬季間の道路交通の安全確保を図った。	
・除雪機械と除雪作業受託業者を確保しつつ、約243kmの市道除雪を行った。	
3. 施策の課題認識及び23年度の取り組み状況(予定)	
(22年度末で残った課題、既に23年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)	
◆幹線道路の整備として、経田地区において国道8号入善黒部バイパスの建設工事が引続き進められる予定である。県道は、宇奈月大沢野線外4路線で道路改良事業が計画されている。また、市道吉島10号線などの補助幹線道路について整備を進める予定である。	
◆生活道路の整備については、住民生活に密着した市道の改良、舗装工事を計画的に進めると共に経田中央地区土地区画整理事業区域内の道路も整備を進める予定である。また、魚津駅前広場と魚津駅西広場を結ぶ市道魚津駅地下道線のバリアフリー化を予定している。	
◆道維持管理体制の強化では、市道の維持補修の速やかな対応を引続き行うと共に除雪機械と除雪作業受託業者の把握や富山県との連携除雪作業等の協議を進め、今冬の除雪態勢確立に万全を期す。	

部会評価 (協議結果、 今後の方針 及び課題等 について記 載)	※今後の施策の方向性※	維持
	市民の道路に対する満足度は11.6ポイント下がっているが、市内の道路改良率、道路補修の実施率や道路除雪延長などの平成22年度実績値は目標を達成している。 しかしながら、道路は市民にもっとも身近な社会資本であり、道路の整備や維持補修等について依然として多くの要望が寄せられており、今後とも施策を推進していく必要がある。	

行政経営戦略会議指示事項	部会評価のとおり推進すること。
--------------	-----------------

施策の トータル コスト	区 分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績
	A. 本施策を構成する事務事業の数			本数					
B. 事業費(事務事業の事業費合計)			千円						
C. 事務事業に要する年間総時間			時間						
D. 人件費(C×1時間あたりの平均人件費)			千円	0	0				
E. トータルコスト(B+D)			千円	0	0				
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の		円	0	0				
	F. 事業費(定義式: B/人口)		円	0	0				
	同 上 G. 人件費(定義式: D/人口)		円	0	0				
	同 上 H. トータルコスト(定義式: E/人口)		円	0	0				